

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成27年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
27-4	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の3次元塩分浸透予測手法の開発	新潟大学 教授 佐伯 竜彦	B
<p>＜研究の概要＞</p> <p>本研究は、飛来塩分環境下にあるコンクリート橋への塩分浸透状況を3次的に把握するシステムを構築することを目的とする。このために、以下の要素技術を開発し、それを組み合わせる。</p> <p>(1)薄板供試体とデータ同化手法を用いて、飛来塩分量解析の境界条件を同定する手法</p> <p>(2)(1)を利用し、橋梁全表面における飛来塩分付着量、即ち、コンクリート中への塩分浸透解析の境界条件となる表面塩分濃度を求める手法</p> <p>(3)環境条件の影響を考慮した不飽和コンクリートへの塩分浸透予測手法</p> <p>(4)薄板供試体の効率的な製造・貼付け・回収方法</p> <p>＜中間評価＞</p> <p>研究の進捗状況は概ね順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、実用化に向けて本手法の適用範囲や予測精度等を明らかにした取りまとめに向けて、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p>＜今後の研究計画・方法への指摘事項＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海岸の状況、土地利用の状況、台風等の低気圧の影響、桁構造と位置などの因子は影響が大きいと考えられることから、この観点を踏まえた整理を行っていただきたい。 2. データの精度とリスク管理の関係性について検討していただきたい。 3. 精密に予測することについて、ニーズとのマッチングに留意し、実構造物に適用した場合の実務上のメリットを明確にしていきたい。 4. 本技術の適用の範囲と精度を明らかにした使用条件の設定や結果の解釈の留意事項についてとりまとめていただきたい。 			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。